

平成二十七年十一月三十日

人物形成に於て讀書が決定的とも云ふべき役割を果たすこと多し。幕末及明治維新の錚々たる人物達の愛讀書に關しては、既に幾多の啓蒙書及學術研究により人口に膾炙したる處數多あるも、茲にては小生の關心に従ひ、吉田松陰、西郷隆盛、陸奥宗光等が獄中又は流刑中にて如何なる讀書をせるや閱せむ。

吉田松陰は『桂小五郎に與ふる書』に於て歴史の知識不足を自認し、野山獄にて『資治通鑑』の「梁記」を愛讀したる旨書き記す。斬首を待つ橋本左内獄中にて「漢記」を愛讀、松蔭之に觸發せらると「梁記」愛讀の所以を『留魂録』に記す。又、野山獄にては『唐詩選掌政』、『孝經正文』、『和蘭文典』、等を友人より取り寄せ。獄中生活にて讀破せし書籍約百冊と云はる。其の外、松蔭『回顧録』は『三河風土記』、『真田三代記』を取り寄せ、更に下田獄中にては『赤穂義士傳』を愛讀せし旨記す。松蔭を始め幕末の志士達の猛勉強に就きては多言を要さずも、渡米失敗直後に『赤穂義士傳』を求めける松蔭の心中は察するに餘あり。

西郷隆盛は、大機道人『禪眼に映じた南洲翁』（昭和十五年）によれば『神皇正統記』、『十八史略』、『唐詩選』等を座右の書とし、徳之島・沖永良部島流刑の際には行李三箇分の書籍を攜行し、『春秋左氏傳』、『孫子』、『陳龍川文鈔』、『言志四録』、『王陽明傳録』、『洗心洞筭記』、『鸚鳴館遺草』等、史書を始め經國濟民や治世牧民の書に専ら親しむ。南洲翁、『西郷南洲遺訓』附録の叔父椎原兄弟宛書牘にて曰く、學問は獄中之御蔭にて上り申候と。陸奥宗光が終生荻生徂徠の『辨道』及び『辨名』を座右の書とせし事、又山形監獄中にての猛勉強、就中ベンサム『道德及立法の諸原理序説』翻譯の業は故粵王先生の御著書等により既に有名なり。五年間の獄中生活にて取り寄せし書籍二百冊を越すと云ふ。『泰西史鑑』、『ギゾー歐洲開化史』、『自由之理』、『彌兒經濟論』、『萬法精理』、『立法論綱』、『刑法論綱』、『民法論綱』、『佛蘭西法律書』、『佛蘭西五法』等、西歐史始め經濟、法律關係のもの多岐に亙る。陸奥の西歐的實務能力の重視は南洲翁の陽明學への傾倒と對照をなすが如し。加ふるに、伊藤博文が平素頼山陽の『日本外史』を愛讀したる事有名なるに比し、初の洋行中の座右には『日本政記』ありたるを知る人寡し。伊藤の漢詩に山陽への愛著の影響を見るも亦宜なり。

何れの先達も獄中又は留學中の苦境にての讀書三昧を通じて人材より人物へと成長せらると察す。

扱、顧ふに、粵王先生も嘗て京城ソウルに於ける「草鞋履わらぢきし時代」に韓國史を『朝鮮通史』、『朝鮮四千年史』等の數多の古典に學ばれ、長坂覺なる筆名にて『隣の國で考へたこと』を草せらる。『岡崎久彦 文語文遺稿集』所收の「朝鮮史散策（古代史・中世史）」に於ても、當時の御讀書の成果は遺憾無く發揮せられたり。（了）

（平成二十七年十二月二十日受附）